

<Aさん>

高校時代はホッケー部で汗を流す。地元のために犯人と対峙する私服の刑事になりたいと警察官に。

<Bさん>

女性白バイ隊員を見て警察官に憧れる。小学生から高校生まで9年間、バスケットボールに明け暮れた。

<Cさん>

子どもの頃からの憧れから地元で警察官になりたいと志望。学生時代はサイクリング愛好会に所属。

<Dさん>

学生時代は剣道に打ち込み、それを生かした仕事を目指したいと警察官を志望した。

REAL TALK

女性警察官

Cさん 交番勤務ののち刑事部門で捜査を担当して様々な事件に対応してきました。その後、生活安全部門へと異動し、現在は事案の捜査や各種防犯活動に従事しています。今の仕事の難しさは、ストーカーやDV、虐待は被害が潜在化しやすく、見た目にはわからなかったり、被害女性が相談できずにひとりで我慢していることが多いこと。それを察知して解消に導き、少しずつ自分の人生を歩いて行ってくれる姿を見ると、この仕事をやってよかったと思います。

Aさん 私も交番勤務と刑事を経験した後、結婚を機に生活安全部門に配属となりました。現在は振り込め詐欺など特殊詐欺被害防止のための企画や広報活動を主に行っています。年々あらゆる手口で詐欺が行われているので、こちらもその対応に必死です。しかし刑事時代も今の防犯の業務も、目に見えてすぐに結果が出るわけではないことが多いので、根気強く続けていくことが必要だと感じています。

Dさん 私はついこの間まで刑事をしていて、今回通信指令課に異動になりました。刑事時代は捜査で動き回ることも多かったのですが、この部署では110番通報の受理や指令がメインとなりますので、最初はまったく違う職務内容でとまどいもありました。しかしここはある意味、県民から見ると一番最初の警察の窓口となる部分。時にはパニックを起こして電話を掛けてくる方もいらっしゃいますので、できるだけ相手を落ち着かせ、なおかつ自分も落ち着いて対応することを心がけ、的確に状況を把握し素早く駆けつけるための支援をするよう努めています。

Bさん 現在は高速道路交通警察隊に勤務しており、高速道路上での事故対応や交通取締りを行うほか、道路上に落ちている落下物の処理などを主な職務にしています。高速道路上は100km/hの速度の世界なので、そこに積み荷などが落ちていた場合、避けるために急ハンドルを切って事故が発生する場合があります。それを未然に防ぐために、関係機関と協力して道路上をパトロールするのです。またシートベルトの着用などの声掛けをすることで、事故を未然に防ぐ対策も行っています。

Cさん 最近では女性警察官の数も増えてきていますが、「女性だから」という感覚はないですね。ただ、働いていると女性特有の問題や課題は出てきます。具体的に言うと、結婚や出産などです。しかし今では産前産後休暇など制度面でもしっかり保障されているし、せっかくなりたくて警察官になったのであれば簡単に辞める選択をしてほしくはないと思っています。将来のことをどうするかしっかり考えて、警察官を志望することも大事。その環境は整っていますから。

Aさん 私自身3人の子どもの育て、3年間の育休をとったこともあります。そこは組織としてしっかり制度がありますので、安心していい部分なのではないでしょうか。そしてCさんもおっしゃったように、私も「女性だから」ということはこの世界にはないと思っています。ただ同じ警察官として、女性という特性を生かして業務にあたる姿勢が大事になるのではないのでしょうか。一般的に女性はソフトなイメージあるので特に子どもや女性には安心感を与えることも多いようですね。

Dさん 私は警察官を目指した時からそういうのをあまり意識したことではないのですが、唯一上げるとすれば体力面でした。ただ、そこもやる気や気持ちの持ち方、あとは警察官としてやっていく覚悟や、こういう仕事をできるようにになりたいという強い思いでこまできました。将来はまた刑事になって、もう一度捜査の第一線で活躍したいと思っていますので、いろいろな経験しておくのはこれからの自分にとってプラスになると思っています。

Bさん 私は白バイ隊員になり、小さい頃に見かけて憧れた女性隊員のように、後輩の女性警察官から憧れられるような存在になるのが目標です。そのためにまずは今の所属で経験を積み、肉体的にも精神的にもタフにならないといけないと思っています。実際、警察車両を運転しながら周りにも気を配るといのは、想像以上にタフさを要求されます。それは男性も女性も同じです。それを乗り越えようという気持ちがあれば、きっと警察官になることはできると思います。

4人からのメッセージ

「女性だから」ではなく、女性という特性を活かす姿勢が大事です！